



岩成工業(株)
岩成 健治



あけましておめでとうございます。

今年2008年は子年で年男となり、抱負を述べるよう依頼があり、書かせていただきます。

干支が廻って来るのも5回目となり、還暦となりました。辞書によると「60年で再び生れた年の干支にかえるところから」「本卦還（ほんけがえ）り」などがあります。回り廻って再び年を重ね始める人生の区切りと言う事でしょうか。

私が生れた昭和23年は戦後のベビーブームで団塊の世代といわれています。食料はじめ大変物不足の時代だったそうです。60年も年月が流れて今日に至るまでは、経済発展・技術革新などの高度成長期を経て社会や、人々の考え方や価値観等、さまざまな変化がありました。物は豊富にあふれ、たいへん便利な国になりました。そして今日、一般生活にも国際化が進み世界が身近なグローバル社会となりました。その反面、古きよき時代といわれるように時代の流れとともに、本来あるべき人間性が失われ悲惨な事件や建設関係においては構造設計偽装のように各方面で社会を欺く事件など問題が頻繁に起こっています。また、地球環境のことも問題になっています。こうなってしまったのは道徳・倫理が欠けて利己主義的な身勝手な横行しているからといわれています。

ある雑誌の記事に、美しい将来の日本をつくるためには、ものが豊かであることに感謝する心、思いやりの心、分かちあう心が必要とありました。

将来・未来を担う次世代の社会が物心ともに豊かな社会となるよう願うところです。

私自身この歳まで何をやっていたのだろうと想っているところですが、還暦となったこれからは次世代のために何か少しは役に立つことをしたいと思います。微々たる事しかできないけれど、子供たちに笑顔で挨拶の声を掛けたり、道路などのゴミ拾いをすること位はすぐできそうだと思うところではあります。

皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



ミシマ産業(株)
三島 一男



新年あけましておめでとうございます。

近年の私どもの業界といえますと、市場の縮小に伴い、公共工事の安値受注の広がり、耐震強度の偽装問題等、ますます混沌とした時代へと突入し、まさに出口の見えないトンネルの中でもがき苦しんでいる、というのが現実ではないでしょうか。「地方切捨ての時代」といわれますが、この地方都市「出雲」も例外ではございません。地方の産業といえば、建設関係の公共事業に依存しているウェイトが高いのは事実です。その体質、経済構造を変えていかなければいけません、それまでには、ある程度の国の支援が必要だと私は考えます。整備が整わなければ、新しい産業も生まれないからです。出雲バypassの開通、高速道路の出雲インターチェンジまでの開通等、整備は着々と進んではいますが、我々の業界が生き残る道はまだまだ見出せません。

そんな中、昨年、私どもの所属する（社）島根県建設業協会出雲支部青年部会は、めでたく「創立10周年」を迎え、「記念式典」、「祝賀会」、そして「記念事業（水谷修氏記念講演）」を盛大に執り行うことができました。このような時代だからこそ、我々青年部会が、そして、この出雲市の建設業界、ひいては島根県の建設業界全てが力を合わせ協力すれば、よりよいまちづくりや、そして産業の活性化に繋がっていくのでは、と感じました。

さて、本年の「抱負」といいますと、私、年男ということで今年、36歳を迎えます。（社）島根県建設業協会の青年部会は45歳までの青年の団体でございます。我々青年には、青年にしか出来ないこと、そして青年としての使命というものがあると思います。それは、失敗を恐れずに何事にも挑戦することであったり、熱い情熱をもって何かに取り組んだり、とまさに青年だからこその特権とでもいえるものではないでしょうか。本年、私はこの青年としての特権を大いに活用すべく、日々精進していく所存でございますので、どうかこの一年もよろしく願いいたします。



編

集

後

記

「全国亭主関白協会」より

いまだき何が亭主関白？と思いきや全く違っていました。

会長 天野周一さんによると、『そもそも、関白の語源を紐解けば、時の権力者の2番目の位。つまり、亭主関白も家庭ではカミさん(神)に頭が上がらない2番目の位置。また、「亭主」とは、お茶を振舞う人、もてなす人、という意味なのだ。つまり、「亭主関白」の真の意味は、妻をちやほやもてなし、補佐するのが役目であるという正しい解釈を、世の亭主たちに知らしめているのが、全国亭主関白協会なのである。』という解釈だそうです。ホームページを見ると『「亭主力」とは、ズバリ、妻の笑顔を引き出す力のことをいう。仕事に追われてきた亭主たちは、妻の、「ネエネエ、ちょっと聞いてよ」に、気のない返事を返し続けてきたのだ。そう、家庭内にいま、一番不足しているのは会話と笑顔。そこで、全亭協では、夫婦円満の「新！方程式」を発表している。たとえば、<非勝三原則>

① 勝たない ② 勝てない ③ 勝ちたくない

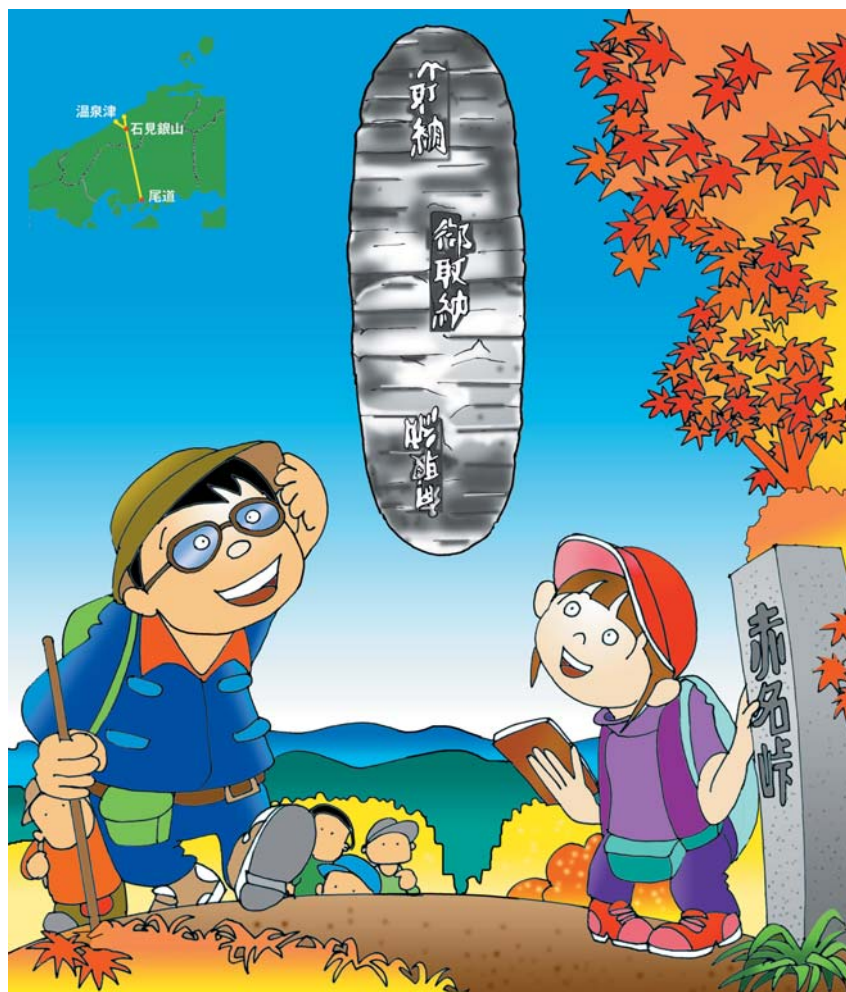
争わないことが、真の勇者であり、勝者なのだ。』(天野周一HPより)

大変参考になりました。

年末に「干支の引継ぎ式」が行われネズミのミッキーが「誠実な社会を、鼠強^ねく築くよう、誓いマウス(代読)」と今年の抱負を語った(?) そうです。

まずは夫婦笑顔で家庭円満の秘訣に挑戦してみませんか？

経営改善研究委員 三原 昇



—表紙のことば—

イラストと文 渡部良治

世界遺産に登録された石見銀山遺跡の経済効果は、鳥根県東部の観光関連産業にも幅広く顕在化し、鳥根県東部の温泉は客足が急増、消費低迷に苦しんできた酒類業界やタクシー業界にも波及するなど、銀山効果の大きさをあらためて浮き彫りにしました。

また、石見銀山から銀を積み出した温泉津の港に通じる2本の街道のほか、江戸時代には銀山から尾道への尾道街道がありました。そこで街道沿いに位置する飯南町や美郷町では、銀の道を活かした地域づくりも進んでいます。

昨年の秋「銀の道を歩く会」の企画により江戸時代と同じ3泊4日の日程で、石見銀山から尾道までの130キロを移動する「銀山ウォーク」が行われ全国から愛好者が参加しました。銀山効果は経済のみならず、県境を越えた人と人との交流も深まりつつあります。